

むし歯について

むし歯はミュータンス菌などの原因菌が口の中の「糖」を利用して「酸」を作り、その酸によって歯の表面が解かされる病気です。自然治癒で元の状態に戻ることはありません。

初期段階の場合は、痛みや不快感はそれほどありませんが、病気が進行して歯の内部の歯髄や歯根膜に達すると、強い痛みや不快感を生じるようになります。症状は程度によりC1~C4に分類されます。



むし歯の特徴

- A. ほとんど無機質だけで出来ている歯に起こる。
- B. 歯はほとんど無機質なので、一度壊れると自然には治らない。
- C. 病気は必ず歯の表面から始まる。
- D. 病気は歯の表面にくっつく歯垢（プラーク）が大きな役割を果たしている。
- E. う蝕のかかりやすさは、おなじ人の口の中でも歯の種類によって著しく違う。
- F. 同じ人でも、歯が生えてからう蝕のかかりやすさは年を追って変わってくる。

★むし歯の進み方



C1. 痛みを感じなくても、むし歯は始まっています。(エナメル質のむし歯)

歯に黒い着色や白濁（白い斑点）で始まります。この段階では痛みがないので、自分で発見することはできません。この段階での歯科医師による適切な処置が大切です。

【治療法】

むし歯の部分だけを除去し、合成樹脂(レジン)を充填します。

C2. 冷たいものがしみる段階です。

う蝕が象牙質にまで進行している段階。冷たいものがしみるなどの自覚症状が現れます。さらに進むと熱いものまでしみるようになります。

【治療法】

むし歯の部分だけを除去し、金属・セラミックなどの素材を用いて詰め物をします。

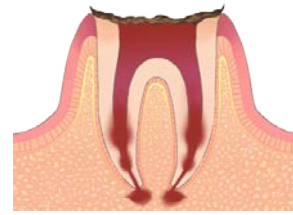


C 3. 痛みが強くなる段階です。

う蝕が歯髄に達すると炎症が起こり、歯髄内の圧が高くなります。このガスによって神経が圧迫され痛みを生じます。

【治療法】

歯髄の炎症が重度な場合は、歯髄組織を除去したあとで根管内を消毒し、薬を充填し、クラウンなどの被せ物をします。症状によっては、特殊な抗生物質を用いて歯髄を保存する処置を行うこともあります。



C 4. 歯の痛みはおさまりますが、骨へ炎症が波及する可能性があります。

歯冠部（歯の頭の部分）がなくなり、歯根だけになります。痛みを感じることはなくなりますが、さらに進行して根尖に膿のかたまりができると、歯ぐきの腫張や痛みがでてくる場合があります。ここまで進行すると治療に大変な手数がかかります。

【治療法】

C3の場合と同様に治療して被せ物をするか、やむを得ない場合は抜歯します。

抜歯した部分は、傷が残った後にブリッジ、部分入れ歯、インプラントなどの方法で歯を補います。